



LOGIENCE
Consulting

これからの物流改革に必要な 4PL という選択肢

荷主企業のための 4PL 導入ガイド

荷主企業の物流部門で顕在化している 6 つの構造課題

物流費上昇の要因が不明

01

物流費が年々上昇しているが、何が原因で、どこに手を打つべきか分からない。コストの構造が見えず、改善の方向性が定まらない。

SLA・品質のばらつき

02

委託先ごとにサービスレベルが異なり、品質のばらつきが発生。KPI が機能しておらず、改善のきっかけを掴めない。

契約のブラックボックス化

03

契約・運賃・附帯作業の条件が不透明で、コストの妥当性を判断できない状態。価格交渉で劣位に立たされる。

データ分断と属人化

04

出荷明細・在庫・運賃・作業データが分断され、意思決定が属人化。データに基づく判断ができない。

法令対応の遅れ

05

2024 年問題、取引適正化、省エネ法などの法令対応が後手に。コンプライアンスリスクが増大している。

価格交渉の劣位

06

物流会社に丸投げしている状態で、運賃見直しや条件交渉で不利な立場に立たされている。

KEY MESSAGE | 解決の鍵は **4PL による統合管理**。物流を "外注" するのではなく、**コスト透明化・パートナー管理・改善実行**を経営として管理する仕組みへ。

サプライチェーン全体を **中立的に設計・統合・運営・ガバナンス** する機能

DEFINITION — 4PL の定義

Fourth Party Logistics

4PL とは、荷主企業に代わり **サプライチェーン全体** を中立的に設計・統合・運営・ガバナンスするマネジメント機能です。実運営（3PL）とは別レイヤーで、荷主の"経営の側" に立ちます。

目的

サービスレベル達成（KPI に基づく品質管理）
コスト妥当性の確保（内訳の透明化と交渉基盤）
コンプライアンス遵守（法令・監査対応）
継続改善の実行（PMO による改善サイクル）

特徴

ベンダーニュートラル

特定 3PL に依存しない中立的立場

データドリブン

数値と KPI に基づく意思決定

経営と現場の橋渡し

経営会議レベルの管理を現場に接続

伴走型の実行支援

計画だけでなく改善の実行まで担う

4PL の役割

物流の "外注" ではなく、"**経営として管理**" する仕組みとして、複数 3PL を統合し全体最適を推進します。

企画設計

KPI・ダッシュボード

改善 PMO

委託先オーケストレーション

契約・SLA 管理

リスク管理